

2023年度 事業報告

社会福祉法人すまいる厚生会は、在宅における利用者のケアマネジメント業務を展開している居宅介護支援サービス、利用者宅に訪問し生活支援や介護をする訪問介護サービス、通いにて入浴、排泄、食事等の提供を行う通所介護サービスを中心に事業展開し、地域に根ざし利用者の方々、ご家族に愛される事業所として運営しています。

新型コロナウイルス感染症は5類に移行し、日常が戻ってきたというものの、介護現場をとりまく環境は人手不足や物価高などが重なり一層厳しいものとなっています。

介護事業者の倒産や休廃業も増え続け、昨年倒産した事業者は122件、休廃業・解散は510件と過去最多となっています。(東京商工リサーチによる)

当法人においても、2023年度は、退職による職員の減員、また人手が足りず、利用者が減ったことにより利用率が大きく低下し、非常に厳しい状況となっております。

そのため下半期には経営改善計画を策定し、全職員へ周知を図りました。業務改善や課題解決において漫然と取り組むのではなく、5つの視点に基づき計画的に実行し、収支改善に取り組みました。

また、災害に備えて事業継続計画を策定し、管理者を中心とする災害や虐待防止、感染症対応等にむけた委員会を設置しました。

職員については、研修計画に基づき、専門研修やスキルアップ研修を実施しました。

地域公益としては、介護実習生を積極的に受け入れるとともに教職員へのセミナーの開催、また中学校での介護実習に参画しました。

介護サービス事業所として、さらなる法令遵守の徹底と介護保険制度に則した適正な法人運営を行うとともに利用者保護・介護事故の防止等に努めました。

介護保険利用者数の増加に向けてさまざまな取り組みを行いましたが、収支状況としては、収入計が2億472万1,494円となり、支出計が2億3,418万8,870円となり、当期の資金収支差額は△2,963万9,156円と非常に厳しいものとなりました。

団塊の世代を含めて前期・後期高齢者が増加するとともに、高齢者や家族からの介護に対する要望はより多様化したものとなっています。

2023年度を区切りとして、法人の将来を見据え、当法人の強みを最大限に打ち出し、一層の実行計画と活動を行ってまいります。

2023年度における主要事業の活動状況については次のとおりです。

1 通所介護事業

通所介護事業では、利用者の在宅生活の維持向上のため、ニーズに沿ったアセスメントを行い、入浴・排泄・食事等の生活支援や機能訓練を行いました。

また、利用者がデイサービスセンターでの生活を楽しめるようにレクリエーションを工夫し、落ち着いて過ごしやすい雰囲気づくりに努めました。

(1) 中央事業所

利用状況については、1日の平均利用目標24名、年間利用目標7,344名(営業日数306日)に対して利用実績は4,724名(目標対比64.3%)となり、前年度の利用実績5,329名からは605名の減(前年度対比88.6%)となりました。

年間の入浴者数は、3,623名で前年度対比81.5%でした。

要介護3以上の利用者の割合は、年間平均で42%でした。

年間の利用状況では、年度当初1日平均16.7名の利用から始まり、新規利用者は年間で40名(前年度29名、対比137.9%)と獲得しました。しかしながら、複数回利用者が入院・入所するなどの影響で利用率は伸び悩みました。下半期には経営計画に沿って営業活動の拡大や、イベントを実施しました。2月からは新規の機能訓練を導入し、個別機能訓練加算を取得しました。3月の利用者はイベントを開催したこともあり、1日平均は17.1名となりました。

(2) 神戸西事業所

利用状況については、1日の平均利用目標15名、年間利用目標4,605名(営業日数307日)に対して利用実績は4,209名(目標対比91.5%)となり、前年度の利用実績4,561名からは352名の減(前年度対比92%)となりました。

年間の利用状況では、入院・入所等が多く、1日の平均利用者数は13.7名となり、前年度の14.9名から減少しましたが、90代を超える方が全体の45%と増加し、認知症対応等スタッフの介護技術の強化に努めました。

活動内容では、利用者家族とケアマネジャー・理学療法士等の多職種連携を密に行い、入院やショートステイの利用登録者に手作りカレンダーや手紙を届けました。利用者家族の事業所への信頼関係の構築に努めるとともに利用者の再開や利用回数の増加、新規利用者の獲得に努めました。

温かい手作り昼食の提供や明るく清潔な浴室での入浴、またダイルールの装飾等により、利用者に居心地の良い時間を過ごしていただくように努めるとともに好評を得ている毎月のカレンダー等の創作活動をはじめ、今後もさらなる取り組みを行います。

2 居宅介護支援事業所

居宅介護支援専門員が要支援・要介護状態の利用者に対し、可能な限り住み慣れた地域での生活が継続できるよう、アセスメントやモニタリング評価を十分に行うとともに、サービス提供事業所や地域包括支援センター・介護保険施設・医療機関等との連携を密に行い、生活支援を推進しました。

(1) 中央事業所

職員体制については、年度当初は介護支援専門員1.5名体制でしたが、11月からは1名採用により2名体制で取り組みました。一人当たりの目標を3.3名（要支援含む）とし、年間利用目標676.5名に対して利用実績は693.5名（目標対比102.5%）となり、前年度の利用実績729名に対し、52.5名の減（前年度対比95.1%）となりました。利用者の入院や入所等が重なり、利用実績は伸びませんでした。

新規の受け入れ人数は18名となり、昨年の20名に対し2名の減となりました。

人材育成については、困難事例の受け入れや他事業所との合同事例検討会を実施しました。また、社会福祉協議会や地域包括センターと連携し、適正なケアマネジメントの実施に取り組みました。

(2) 神戸西事業所

職員体制については、介護支援専門員3名体制で特定事業所加算Ⅲ（300単位）の算定をする体制で取り組みました。一人当たりの目標を3.3名（要支援含む）とし、年間利用目標1,188名に対して利用実績は871名（目標対比73%）となり、前年度の利用実績938.5名からは67.5名の減（前年度対比92.8%）となりました。

要介護の新規の受け入れ件数は32件（前年度は24件）となりましたが、終了件数が38件と大きく上回り、件数の減少となりました。

人材育成については、特定事業所加算を受領している事業所としての研修体制を強化し、スキルアップを図るとともに多種多様なケースを受け入れ積極的に取り組みました。

3 訪問介護事業

訪問介護事業では、要介護者一人ひとりが「その人らしい」日常生活を営めるよう心身の特性や介護者を取り巻く環境などを細かく観察し、援助活動を推進しました。

また、地域包括センターや居宅介護支援事業所との報告・連絡・相談を密に行い、サービスの向上や利用者の確保に努めました。

(1) 中央事業所

利用状況については、サービス提供責任者2.5名体制で一人当たり目標40名とし、年間利用目標1,200名に対して利用実績は1,087名（目標対比90.5%）とな

り、前年度の利用実績1,371名からは284名の減（前年度対比79.2%）となりました。

自費サービスの提供時間は231時間となり、前年度の309時間から78時間減（前年度対比74.7%）となりました。要因としてはサービス提供責任者が1名減となったことと、3月末に常勤ヘルパー2名の退職が影響しています。

（2）神戸西事業所

利用状況については、サービス提供責任者4.5名体制で一人当たり目標33名とし、年間利用目標1,782名に対して利用実績は1,305名（目標対比73.2%）となり、前年度の利用実績1,175名からは130名の増（前年度対比111%）となりました。

新型コロナウイルス感染症拡大により、人員不足となったことからサービス提供時間が減少したことによる影響が大きいものとなりました。

自費サービスの提供時間は186.5時間となり、前年度187.5時間から1時間の減（前年度対比99%）となりました。

地域貢献事業として、神戸市青少年育成協議会の依頼により「青少年を守る店」「地域みはり番（イエローフラッグ）」を継続して実施しました。

4 障害福祉サービス

障害のある方の障害の程度や勘案すべき事項（社会活動や介護者、居住等の状況）を踏まえ、障害者一人ひとりが「その人らしい」日常生活を営めるよう、援助を行いました。

また、障害者地域支援センターとの報告・連絡・相談を密にし、サービス向上や利用者確保に努めました。

居宅介護の年間利用者数は296名で利用回数は2,131回となり、前年度の利用回数2,117回から14回の増となり、人数は前年度276名から20名の増となりました。

移動支援の年間利用者数は55名で、利用回数は212回となり、前年度の年間利用者数58名、利用回数225回から13回の減となり、年間利用者数58名から3名の減となりました。

地域の障害支援センターと連絡を密に取り合い、利用者のニーズの確認や関連機関との情報共有を行いサービスの向上に努めました。

2023年度下半期 重点取組報告

介護業界を取り巻く経営環境の急激な変化に対応し、競争環境に適応するために経営計画を策定し、2023年度下半期から重点実施事項である5つの視点に基づき取組みました。

1. 学習と成長の視点

(1) 研修

集合研修、専門研修等オンライン開催も含め各職員が受講
回数 下半期17回開催

(2) 勉強会・委員会

BCP策定委員会 12月26日 1月30日 2月27日開催
虐待防止委員会 2月27日開催

(3) 目標管理・面談の実施

下半期に目標を設定し、それに基づいて管理者以上と面談を実施
パートを含めた全職員との面談を11月と3月に実施

2. 業務プロセスの視点

(1) 営業活動の強化

施設長が各関係施設に営業活動を実施

3. 顧客（利用者）の視点

(1) 利用者アンケートを中央および須磨のデイサービスで実施

9割以上の方から返答があり、その中で9割以上の方が好評な返答でした。
利用者とケアマネジャーの声をしっかりと受け止め今後活かしていきます。

(2) インターネットでの発信

中央デイと須磨デイでの献立表をHPに掲載

4. 財務の視点

予算の立案に際し、目標設定と数値目標設定を実施

5. 地域公益の視点

(1) 介護実習生の受け入れ

兵庫県立衛生学院と神戸市医師会看護専門学校からの学生を受け入れ、中央通所介護と中央訪問介護で介護実習を実施

(2) 教職員へのセミナーの開催

兵庫県学校厚生会の会員に対し、介護の理解を深める講座を3回実施

(3) 福祉教育プロジェクト

神戸市老人福祉施設連盟が主催する福祉教育プロジェクトに参画し、須磨北中学校1年生と介護体験を実施